

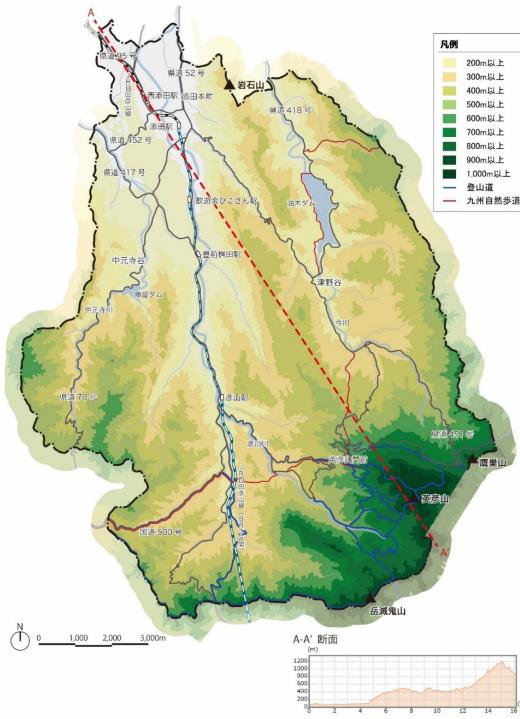
24 添田町文化財保存活用地域計画【福岡県】

【計画期間】令和8～17年度（10年間）

【面 積】約132.20km²

【人 口】約8.2千人

【関連計画等】添田町歴史的風致維持向上計画
(R6～15年度)



■指定等文化財件数一覧

大分類	中分類	国指定 ・選定	国選択	県指定	町指定	国登録	計
有形 文化財	建造物	4	-	1	1	0	6
	絵画	0	-	0	0	0	0
	彫刻	0	-	1	1	0	2
	工芸品	2	-	1	0	0	3
	書跡・典籍	1	-	0	0	0	1
	古文書	0	-	0	0	0	0
	考古資料	1	-	0	0	0	1
無形文化財	歴史資料	0	-	0	0	0	0
	民俗	0	0	0	0	0	0
	文化財	1	0	0	1	0	2
	記念物	1	-	1	2	0	4
	動物・植物・地質鉱物	2	-	4	2	0	8
	文化的景観	0	-	-	-	-	0
	伝統的建造物群	0	-	-	-	-	0
合 計		13	0	12	7	0	32

指定等文化財は32件、未指定文化財は814件把握

■推進体制

添田町	<ul style="list-style-type: none"> ・商工観光振興課歴史文化財係 ・商工観光振興課英彦山振興室 【主な関係課】・添田町教育委員会・道路整備課 ・住環境整備課・まちづくり課 ・商工観光振興課
附属機関	<ul style="list-style-type: none"> ・添田町文化財専門委員会 ・添田町歴史的風致維持向上計画推進協議会
関係行政 機関	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県・福岡県教育委員会 ・福岡県市町村文化財保存整備協議会 ・筑豊文化財行政連絡協議会 ・福岡県市町村名勝庭園連絡協議会 ・田川地区消防本部、添田分署・周辺自治体(ほか)
文化財所 有者等	<ul style="list-style-type: none"> ・個人・社寺・管理者・管理団体 ・津野神楽保存会・彦山踊り保存会(ほか)
民間の活 動団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・添田町観光ガイドの会 ・添田町商工会(ほか)
学術機関	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県内の各博物館・国立大学法人九州大学(ほか)
地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ・町民・各行政区・町内小中学校・消防団(ほか)

■歴史文化の特性

①英彦山を頂とする厳しくも豊かな自然環境

本町を象徴する靈峰「英彦山」は、豊かな自然と生態系を育んでおり、古くから人々の信仰を集め、地域の文化の形成に大きな役割を果たしている。



②英彦山から流れる河川沿いに広がる黎明期の人々の営み

英彦山から流れる河川沿いでは、縄文時代から平安時代の遺跡や出土品が多く見つかり、豊かな自然を背景として古代からの人々の生活が営まれている。



③英彦山修験道の伝統行事

英彦山修験道を起源とする五穀豊穣を願う農耕儀礼は、形を変えながら今日まで続けられている、地域の歴史を象徴する伝統行事である。



④英彦山山麓に伝承された盆踊り

「彦山踊り」をはじめとする英彦山山麓の盆踊りは、夏の風物詩として、歴史的な景観の中で風情を生みだしている。



⑤英彦山権現講をはじめとする多様化する英彦山詣で

英彦山権現講を中心に九州一円に広まった英彦山詣では、現在も代参や授与品を通じて信仰が受け継がれないとともに、登山といった行楽も加わりながら続いている。



⑥里山にひろがる農耕と奉納芸能

英彦山から始まる神幸祭は水の流れのように周辺の里山に広がり、そこで奉納される神楽や獅子舞等は英彦山への信仰と里山の農耕文化の結びつきを今に伝えている。



⑦英彦山参詣道「日田道」と添田本町のまつり

英彦山参詣道である日田道の宿場町として栄えた添田本町の神幸祭は、歴史的建造物が残るまちなかをバレン飾りの山車が巡行し、かつての繁栄に根差した文化が息づいている。



(1) 文化財の調査

- ・美術工芸品、無形文化財、民俗文化財、記念物等の未指定文化財の調査が不十分である
- ・古文書等の把握及び詳細調査が不十分である
- ・把握している文化財の情報を一元的に管理できていない

- 美術工芸品、無形文化財、民俗文化財、記念物等の未指定文化財の把握調査の推進
- 古文書等の把握及び詳細調査の推進
- 文化財の情報整理の推進

1-1 未指定文化財の調査事業

調査が不十分である美術工芸品、無形文化財、民俗文化財、記念物等の未指定文化財の把握や資料収集、詳細調査を進める。

期間：R8～R17

◎：添田町 ○：町附属機関、文化財所有者等、学術機関

(2) 文化財の保存

- ・指定文化財の適切な保存が必要である
- ・町所有の指定文化財の建造物の適切な保存管理が必要である
- ・国指定史跡英彦山の維持管理、保存整備が不十分である
- ・未指定文化財の建造物の毀損が進み、保存状態が悪化している
- ・祭礼や芸能等の無形の民俗文化財の保存に関する担い手への負担が大きく、活動の継承が危惧される
- ・文化財建造物は火災や地震により滅失するリスクがある
- ・開発行為や不十分な管理等により、文化財を取り巻く周辺環境が損なわれるおそれがある

等

- 指定文化財の保存の推進
- 町所有の指定文化財の建造物の保存管理の推進
- 国指定史跡英彦山の維持管理、保存整備の推進
- 未指定文化財の建造物の修理の推進
- 祭礼や芸能等の無形の民俗文化財の保存に関する担い手の支援
- 文化財建造物の火災・地震対策の推進
- 文化財を取り巻く周辺環境の保全の推進

等

2-12 国史跡英彦山の保存整備

「国指定史跡英彦山保存活用計画」及び「国指定史跡英彦山整備基本計画」に基づき、史跡の価値を堅実に保つための保存整備を実施する。



史跡英彦山

期間：R8～17

◎：添田町 ○：町附属機関、文化財所有者等、学術機関

(3) 文化財の活用

- ・利用されていない未指定文化財の建造物がある
- ・資料の劣化や保管環境の制約等により、公開できない指定文化財がある
- ・文化財周辺の便益施設が老朽化し、不足している
- ・英彦山周辺の環境整備が不十分である
- ・町の歴史文化の情報発信や普及啓発が不十分である
- ・町の歴史文化を活かした観光や交流の取組みが十分ではない

- 未指定文化財の建造物の活用と整備の推進
- 指定文化財公開の代替手段の検討の推進
- 文化財周辺の便益施設等の整備
- 英彦山周辺の環境整備の推進
- 町の歴史文化の情報発信、普及啓発の推進
- 町の歴史文化を活かした観光や交流の推進

3-15 普及啓発イベント事業

文化財を活かしたまちづくりや歴史的風致維持向上計画の推進のため、勉強会や講演会等の普及啓発のためのイベントを開催する。



普及啓発イベント

期間：R8～17 ◎：添田町

(4) 文化財の保存・活用の体制

- ・文化財の保存・活用を進めるための府内体制が不十分である
- ・文化財の保存・活用を進めるための多様な主体間の連携が不十分である
- ・文化財を保存・活用する担い手が不足している

- 文化財の保存・活用に係る府内体制の強化
- 町と附属機関や関係行政団体等との連携体制の構築
- 町と文化財所有者等、民間の活動団体等、地域住民、学術機関との連携体制の構築
- 文化財の保存・活用に係る担い手づくり

4-12 まちづくり団体育成支援事業

文化財の保存・活用に係るまちづくりを進める民間の活動団体等の活動経費の一部について、助成金を交付し支援する。



期間：R8～17

◎：添田町 ○：民間の活動団体等

【参考】関連計画等

添田町歴史的風致維持向上計画（第2期）（令和6～15年度）

添田町の維持向上すべき歴史的風致

本町は、福岡県の東南端の大分県との県境に位置し、古くから信仰を集める靈峰「英彦山」は、日本三大修驗山の一つに数えられ、重要文化財「英彦山神社奉幣殿」をはじめ様々な社殿が建ち並び、麓の平野部にも、明治以降の石炭産業の発展が伴って、重要文化財「中島家住宅」等をはじめとする町家が軒を連ねている。雄大な自然を背景に、これらの歴史的建造物の中で、松会祈年祭や神幸祭等の伝統的な祭り・芸能等の活動が地域の方々により賑々と受け継がれていることで、本町独特の趣が醸し出されている。

1. 英彦山神宮にまつわる歴史的風致

1-1. 柱松神事にみる歴史的風致

柱松神事は奉幣殿前の斎庭に建てられた柱松に淨火が灯される中、平稳成就に合掌する人々の情景がみられる。



斎庭に建てられた柱松

1-2. 御潮井採りにみる歴史的風致

御潮井採りは九里八丁の道程を往来し、神社を神事参詣したり、持ち帰った御潮井で参道沿いの銅鳥居をはじめ、門前山中を清め祓いする情景がみられる。



御潮井採り一行の往来

1-3. 御田祭にみる歴史的風致

御田祭は田植え神事として、現在も田植え前に英彦山詣でを行い、奉幣殿前に斎庭を設け、英彦山権現に豊作祈願をする情景がみられる。



斎庭での早乙女の舞

1-4. 神幸祭にみる歴史的風致

神幸祭は神輿が参道を勇壮に上り下りし、その道程で稚児舞や獅子舞、鉾舞が奉納されており、今なお英彦山権現を讃える情景がみられる。



参道を下る神輿

2. 添田町地区と神幸祭にみる歴史的風致

添田町神幸祭は、岩石城城下町に端を発する日田道沿いに整備された町割りに中島家住宅等の町家建築が軒を連ねるなか山車が巡幸するもので、疫病退散や町内安全を祈願する情景がみられる。



山車の巡幸

3. 英彦山水系流域と民俗芸能にみる歴史的風致

3-1. 津野神楽にみる歴史的風致

津野神楽は、高木神社の厳かな雰囲気の中で、色鮮やかな衣装や飾り付けの華やかさが入り混じる情景がみられる。



奉納される神楽

3-2. 落合獅子楽にみる歴史的風致

落合獅子楽は、神社境内において子供樂打ちと獅子舞が奉納され、太祖神社や高木神社への一年の祈念の気持ちが感じられる情景がみられる。



奉納される子供樂打ち

3-3. 野田獅子楽にみる歴史的風致

野田獅子楽は、加茂神社で五穀豊穣への神徳に感謝し、神靈の慰め奉るため舞われ、楽を打つ子供達の目は生き生きと輝き、村を担っていく新しい息吹を感じられる。



奉納される獅子楽

4. 彦山踊りにみる歴史的風致

彦山踊りは報恩寺跡境内などで踊られ、三味線や笛、太鼓の音頭、口説き手の声が闇夜に溶け込み、昔笠姿の踊り手のしなやかな足運びから、深山にも「みやこ情緒」が感じられる。



闇夜に踊られる彦山踊り

5. 英彦山権現講をはじめとする英彦山詣でにみる歴史的風致

毎年九州の各地域にある英彦山権現講において代表者を決め、英彦山神宮上宮に参詣する英彦山詣でが賑々と受け継がれている。



上宮の参詣

6. 高住神社にまつわる歴史的風致

6-1. 神幸祭（豊前坊 丑日祭）にみる歴史的風致

高住神社は牛馬信仰の中心地として、六角形の蓮華奥様を成す神輿巡幸や牛くじが行われ、農村部から多くの参詣者を集めている。



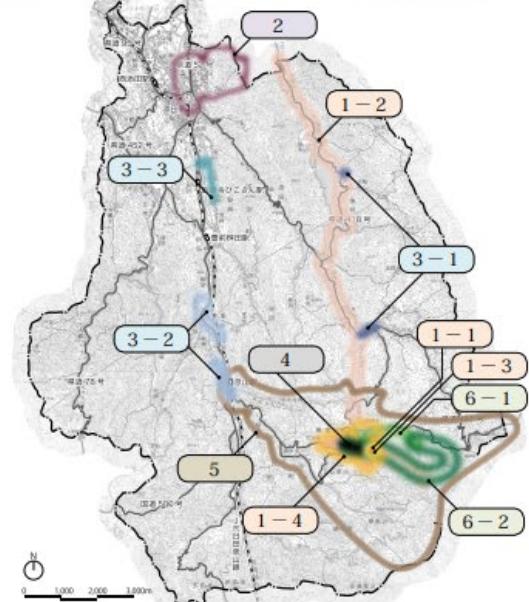
銅鳥居を取る神輿

6-2. 豊前坊採燈護摩供にみる歴史的風致

高住神社境内に組まれた壇木から膜々と立ち上る護摩の煙には、往時の山伏が厳しい修行で得感した神仏の息吹が今も感じられる。



採燈護摩作法



出典：添田町HP 添田町歴史的風致維持向上計画(第2期)概要版